

マーケットレポート



カナダ中央銀行が追加利上げを実施

～緩やかなペースでの利上げ継続を示唆～

7月11日、カナダ中央銀行(以下、中銀)は政策金利を0.25%引き上げ、1.5%とすることを決定しました。利上げは2018年1月以来、半年ぶり、昨年来で計4度目となります。

◆追加利上げは市場の想定内

カナダの2018年1-3月期の実質GDP(国内総生産)成長率は前期比年率で+1.3%と減速したものの、4月時点の中銀予想では4-6月期は同+2.5%へ持ち直しが見込まれていました。

足元では5~6月の製造業PMIが連続で水準を切り上げるなど景気が底堅い推移を続ける一方、消費者物価指数は5月まで4カ月連続で中銀目標の2%水準を上回っており、金融市場では今回の利上げが幅広く予想されていました。

◆今後の見通し、着目点

中銀は声明文で、「物価を目標近辺に保つためには高い金利が必要」との文言を維持した一方、今後は経済指標などを注視しつつ段階的なアプローチを取っていくとの方針を示しました。今回の見通しでは、4-6月期の成長率予想が+2.8%に引き上げられたほか、当面は消費者物価指数が2.5%近辺まで加速するとしており、緩やかなペースで利上げが継続されると見られます。

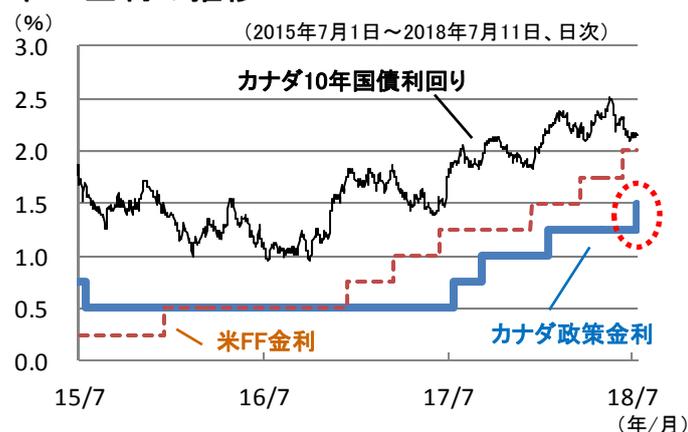
カナダ・ドルは2月初めに対米ドルで1米ドル=1.22カナダ・ドル台の高値をつけたものの、6月下旬には同1.33カナダ・ドル台まで弱含みました。米国の利上げ継続に加えて、NAFTA(北米自由貿易協定)の交渉が難航していることなどがカナダ・ドルの売り材料となっている模様です。

カナダ政府は7月1日、米国が課した鉄鋼・アルミ関税に対する報復関税を発動しました。中銀は、こうした貿易摩擦への対応が一部の業種や雇用をやや難しくしているものの、カナダ経済全体の成長やインフレへの影響は緩やかと見ています。

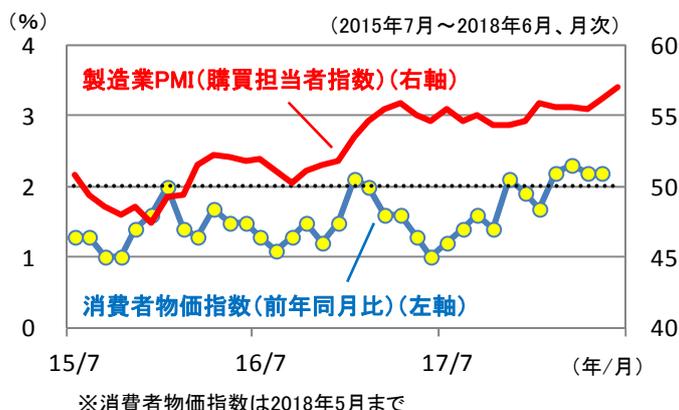
貿易問題の行方は不透明ながら当面はカナダ景気は堅調、利上げ観測も残存することからカナダ・ドルはもみ合い推移が続きます。

(出所)Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

カナダの政策金利、10年国債利回り、および米FF金利の推移



カナダの企業景況感、消費者物価指数の推移



カナダ・ドル為替レートの推移



【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。